

箱庭風景

僕は人工を愛す。僕は今天然自然の景色を畫く時間を殆ど持つて居ない。
然^{しか}しどうしても天然の風景を畫^かき度^たい人ならば僅かの時間でも何とか工風して
畫くであらう。僕は今人工に依る静物材の方に興味を持つて居るので風景は
畫かなくとも氣が済むのである。好い景色は僕にとつても好い景色であるが、
好い景色はあまり畫き度くない。人工の加はつて居る景色の方が僕には向いて
居る。結局今の僕には天然自然の景色は畫けないのであらう。もつと年をとつて
老人になつたら畫き度くなれるやうにも考へて居る。どうもまだ僕は人間臭い
ものの方が好きらしい。

栃木縣の栃木へいつか遊びに行つた時に友人に案内して貰つて箱庭道具を
作るうちに行つた。そして箱庭の道具を少し買つて來た、そして聊か風景を
感じながら机上に並らべて畫き彫つたものがこの繪^えである。

「日本版画協會々報」第 25 号（1938（昭和 13）年 2 月 5 日より